

## 鹿児島銀行

**アナリスト：****小野寺亮**

東京

電話 (03)4550-8690

**根本直子**

東京

電話 (03)4550-8720

**概要**

- 11月9日に発表した銀行の新格付け規準にもとづき格付けを見直した結果、鹿児島銀行の長期・短期カウンターパーティ格付けを「A/A-1」に据え置いた。アウトルックは引き続き「安定的」である。
- 同行の格付けは、1) 日本を主要市場とする銀行のアンカー値「a-」、2) 同行の事業ポジションが適切 (adequate)、自己資本・収益性が強い (strong)、リスクポジションが適切 (adequate)、資金調達が平均的 (average)、流動性が強い (strong) との S&P の評価——にもとづく。
- 「安定的」のアウトルックは、今後 1-2 年程度は、現在の格付けに見合った財務基盤を維持可能との S&P の見方を反映したものである。

**格付けアクション**

スタンダード&プアーズ・レーティングズ・サービスズ (以下「S&P」) は 2011 年 12 月 8 日付で、鹿児島銀行の長期・短期カウンターパーティ格付けを、「A/A-1」に据え置いた。長期カウンターパーティ格付けのアウトルックは引き続き「安定的」である。銀行基礎信用力格付けは取り下げた。

**格付け根拠**

鹿児島銀行の格付けは、事業ポジションが「適切 (adequate)」、自己資本・収益性が「強い (strong)」、リスクポジションが「適切 (adequate)」、資金調達が「平均的 (average)」、流動性が「強い (strong)」——との S&P の評価を反映したものである。同行のスタンドアローン評価 (特別な支援などを考慮する前の同行単独ベースの信用力評価) は「a」である。

S&P の銀行格付け規準では、銀行業界のカントリーリスク評価 (BICRA) として各国・地域の経済リスクと産業リスクを評価し、それらのスコアをもとに銀行のスタンドアローン評価の基準点となるアンカー値を決定する。日本を主要市場とする銀行のアンカー値は「a-」である。

第一の要因である経済リスクの評価では、日本経済が先進的で多様性に富み、経常収支が黒字で対外純資産残高が高水準にあることを強みとみる一方、政府の債務が高水準で財政政策の柔軟性が低いことを弱みとみている。第二の産業リスクの評価では、資金調達に占めるコア預金の割合が高水準で安定していることや、規制と監督が厳格に行われていることを、強みとして反映している。弱みとしては、金融機関数が多く、市場が細分化されていることが挙げられ、その結果、銀行の収益力は総じて低い。

S&P は鹿児島銀行の事業ポジションを「適切 (adequate)」と評価している。2011年3月期末の総資産額は3.5兆円と日本の地方銀行(63行)のなかで中程度だが、地元鹿児島県において長年にわたり強固な顧客基盤と安定的な収益基盤を維持しており、貸し出しと預金の県内シェア(2011年3月末)はそれぞれ、44%、46%と、2番手行を大きく引き離している。ただし、大手行を含めたベースと比較してみると顧客基盤は限定的で、また営業基盤も一部地域に集中している。経営方針は、リテール向け貸し出し(中小企業向け貸し出し・住宅ローン)に引き続き注力するなど、保守的に維持されている。

自己資本・収益性は「強い (strong)」と評価している。リスク調整後自己資本(RAC=Risk Adjusted Capital)比率は、今後18カ月程度の間は11.5-12.0%と、国際比較で高い水準にとどまると予想する。銀行貸し出しに対する需要が限定的なことや厳しい競争状況を反映して利鞘が縮小傾向にあることに鑑みると、基礎的収益力を示すコア業務純益の水準は今後、若干低下する可能性があること S&P はみている。一方、中小企業向けの公的な金融支援策の効果もあって、今後1-2年の与信関係費用が抑制される結果、同行は今後数四半期の間、安定的に純利益を計上する可能性が高いとみている。

リスクポジションの評価は「適切 (adequate)」である。同行のリスクポジションや貸し出し等のリスクアセット量は、今後1-2年は大きく変化しないと予想する。2011年3月期末のネット不良債権比率は1.6%と管理可能な水準にある。ただし、中小企業向けの公的な金融支援策の効果によって押し下げられている可能性があり、仮に今後、国内景気が悪化するなどして中小企業の業況改善が進まなければ、不良債権が増加し、資産の質が劣化するリスクがある。投資銀行業務やトレーディング業務の占める割合は限定的であるため、リスクの複雑性は低い。こうした地方銀行の業務特性を反映し、同行はリーマンショック後の世界的な金融市場の混乱のなかでも黒字を維持するなど、損失計上の実績は大手行との比較では安定的かつ良好である。

資金調達は「平均的 (average)」、流動性は「強い (strong)」と評価している。営業地域における堅固な市場地位を背景に、小口分散化した預金基盤がコア預金の安定性を支えている。しかし、預金基盤やその他の資金調達基盤は国内大手行に比べると見劣りし、国内行全体のなかでは平均的な水準にあること S&P はみている。2011年3月末の預貸率は69%と低水準であり、また国債や現金等の高流動性資産は市場性の短期調達残高を大きく上回り、良好な流動性の状況を裏付けている。

必要時に同行に対して政府から特別な支援が提供される可能性を、4段階の上から2番目にあたる「やや高い (moderately high)」と評価している。この評価は、1) 銀行に対する日本政府 (※「AA- / ネガティブ / A-1+」、※は無登録格付け、詳細は本稿末尾の「S&P の格付けについて」を参照) の支援姿勢を「極めて支援的 (highly supportive)」と、2) また地域金融における重要な役割に鑑み、日本の金融システムにとっての同行の重要性を「中程度 (moderate)」と——S&P が評価していることにもとづく。ただし、同行の格付けはスタンドアロン評価と同水準であり、政府による特別支援の可能性を反映したノッチアップは実施していない。S&P の格付け規準では、特別支援の可能性の評価が「やや高い (moderately high)」の場合、同行の現在のスタンドアロン評価「a」と、日本の現在のソブリン格付け※「AA-」の組み合わせのもとでは、同ノッチアップを実施しない。

**アウトルック: 安定的**

景況低迷の影響を受けているものの、地元での強固な事業基盤と堅固な自己資本基盤に支えられ、今後1-2年にわたり、潜在的な信用リスクを管理し、現在の格付けに見合った財務基盤を維持できるとS&Pはみている。

今後、与信費用のバッファーとなる基礎的な収益力が、S&Pの想定を上回る水準へと大幅に強化された場合には、格上げとなる可能性がある。一方、資産の質が大幅に悪化するなどしてリスクポジションの評価が低下した場合や、貸し倒れなどの損失が拡大し、同行のRAC比率が10%を下回る見通しが強まった場合には、格下げを検討する。

**鹿児島銀行**

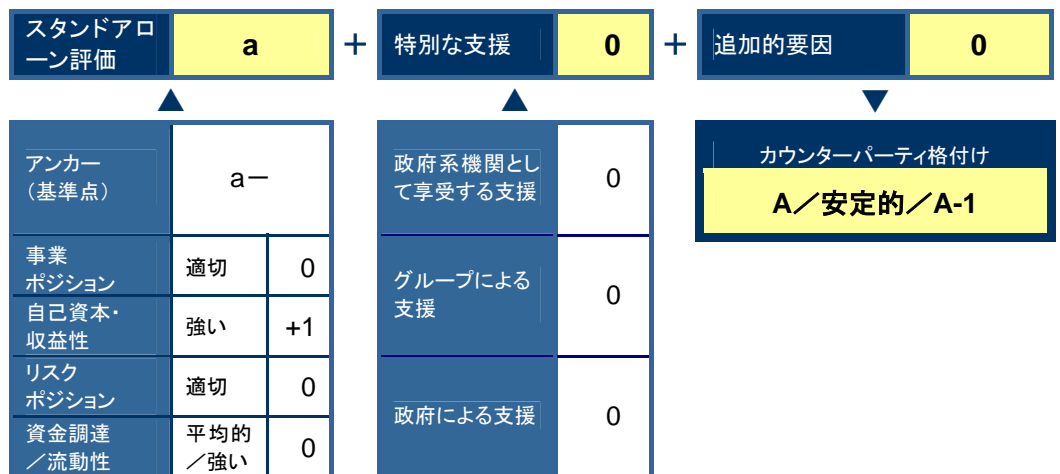
据え置き

**A / 安定的 / A-1**      カウンターパーティ格付け

格付け取り下げ

**B**      銀行基礎信用力格付け

\*カウンターパーティ格付けは「長期 / 長期格付けのアウトルック / 短期」で表示



## <関連レポート>

2011年11月10日付「日本の銀行業界のカントリーリスク評価を『グループ2』に維持」

2011年11月9日付「Banks: Rating Methodology And Assumptions」

2011年11月9日付「Banking Industry Country Risk Assessment Methodology And Assumptions」

### S&Pの格付けについて:

スタンダード&プアーズ・レーティングズ・サービスズが提供する信用格付には、日本の金融商品取引法に基づき信用格付業者として登録を受けているスタンダード&プアーズ・レーティング・ジャパン株式会社が提供する信用格付（以下「登録格付」）と、当該登録を受けていないグループ内の信用格付業を行う法人が提供する信用格付（以下「無登録格付」）があります。本稿中で記載されている信用格付のうち「※」が付されている信用格付は無登録格付であり、それ以外は全て登録格付です。なお、スタンダード&プアーズ・レーティング・ジャパン株式会社が提供する信用格付の一覧は同社の日本語ウェブサイト([www.standardandpoors.co.jp](http://www.standardandpoors.co.jp))の「ライブラリ・規制関連」で公表しています。

Copyright © 2011 by Standard & Poor's Financial Services LLC (S&P), a subsidiary of The McGraw-Hill Companies, Inc. All rights reserved.

本稿に掲載されているコンテンツ（信用格付、信用関連分析およびデータ、モデル、ソフトウェア、またはそのほかのアプリケーションもしくはそのアウトプットを含む）及びこれらのいかなる部分（以下「本コンテンツ」といいます）について、スタンダード&プアーズ・フィナンシャル・サービスズ・エル・エル・シー（以下「スタンダード&プアーズ」）による事前の書面による許可を得ることなく、いかなる形式あるいは手段によっても、修正、リバースエンジニアリング、複製、頒布を行うこと、あるいはデータベースや情報検索システムへ保存することを禁じます。本コンテンツを不法な目的あるいは権限を与えられていない目的のために使用することを禁じます。

スタンダード&プアーズ、その関連会社、外部サービス提供者、およびその取締役、執行役員、株主、従業員あるいは代理人（以下、総称して「スタンダード&プアーズ関係者」）はいずれも、本コンテンツに関して、その正確性、完全性、適時性、利用可能性について保証いたしません。スタンダード&プアーズ関係者はいずれも、原因が何であれ、本コンテンツの誤謬や脱漏、あるいは、本コンテンツを利用したことにより得られた結果に対し、あるいは利用者により入力されたいかなる情報の安全性や維持に関して、一切責任を負いません。本コンテンツは「現状有姿」で提供されています。スタンダード&プアーズ関係者は、明示または黙示にかかわらず、本コンテンツについて、特定の目的や使用に対する商品性や適合性に対する保証を含むいかなる事項について一切の保証をせず、また、本コンテンツに関して、バグ、ソフトウェアのエラーや欠陥がないこと、本コンテンツの機能が妨げられないことがないこと、または、本コンテンツがいかなるソフトウェアあるいはハードウェアの設定環境においても作動することについての保証を含む一切の保証をいたしません。いかなる場合においても、スタンダード&プアーズ関係者は、損害が生じる可能性について報告を受けていた場合であっても、本コンテンツの利用に関連する直接的、間接的、付随的、制裁的、代償的、懲罰的、および、特別なし派生的な損害、経費、費用、訴訟費用、損失（損失利益、逸失利益あるいは機会費用など）を含みますが、これらに限定されません）に対して、いかなる者に対しても、一切責任を負いません。

本コンテンツにおける信用格付や見解を含む信用に関する分析は、それらが表明された時点の意見を示すものであって、事実の記述ではなく、証券の購入、保有または売却の推奨や勧誘を行うものではなく、何らかの投資判断を推奨するものでもありません。スタンダード&プアーズは、本コンテンツについて、公表後にいかなる形式やフォーマットにおいても更新する義務を負いません。本コンテンツの利用者、その経営陣、従業員、助言者または顧客は、投資判断やそのほかのいかなる決定においても、本コンテンツに依拠してはならず、本コンテンツを自らの技能、判断または経験に代替させてはならないものとします。スタンダード&プアーズの意見と分析は、いかなる証券の投資適合性について言及するものでもありません。スタンダード&プアーズは「受託者」あるいは投資助言者として行為するものではありません。スタンダード&プアーズは、信頼に足ると判断した情報源から情報を入手してはいますが、入手したいかなる情報についても監査はせず、またデューデリジェンスや独自の検証を行う義務を負うものではありません。

スタンダード&プアーズは、それぞれの業務の独立性と客観性を保つために、事業部門の特定の業務を他の業務から分離させています。結果として、スタンダード&プアーズの特定の事業部門は、他の事業部門が入手できない情報を得ている可能性があります。スタンダード&プアーズは各分析作業の過程で入手する非公開情報の機密を保持するための方針と手続を確立しています。

スタンダード&プアーズは、信用格付の付与や特定の信用関連分析の提供に対する報酬を、通常は発行者、証券の引受業者または債務者から、受領することがあります。スタンダード&プアーズは、その意見と分析結果を広く周知させる権利を留保しています。スタンダード&プアーズの公開信用格付と分析は、無料サイトの [www.standardandpoors.com](http://www.standardandpoors.com)、そして、購読契約による有料サイトの [www.ratingsdirect.com](http://www.ratingsdirect.com) および [www.globalcreditportal.com](http://www.globalcreditportal.com) で閲覧できるほか、スタンダード&プアーズによる配信、あるいは第三者からの再配信といった、他の手段によっても配布されます。信用格付手数料に関する詳細については、[www.standardandpoors.com/usratingsfees](http://www.standardandpoors.com/usratingsfees) に掲載しています。